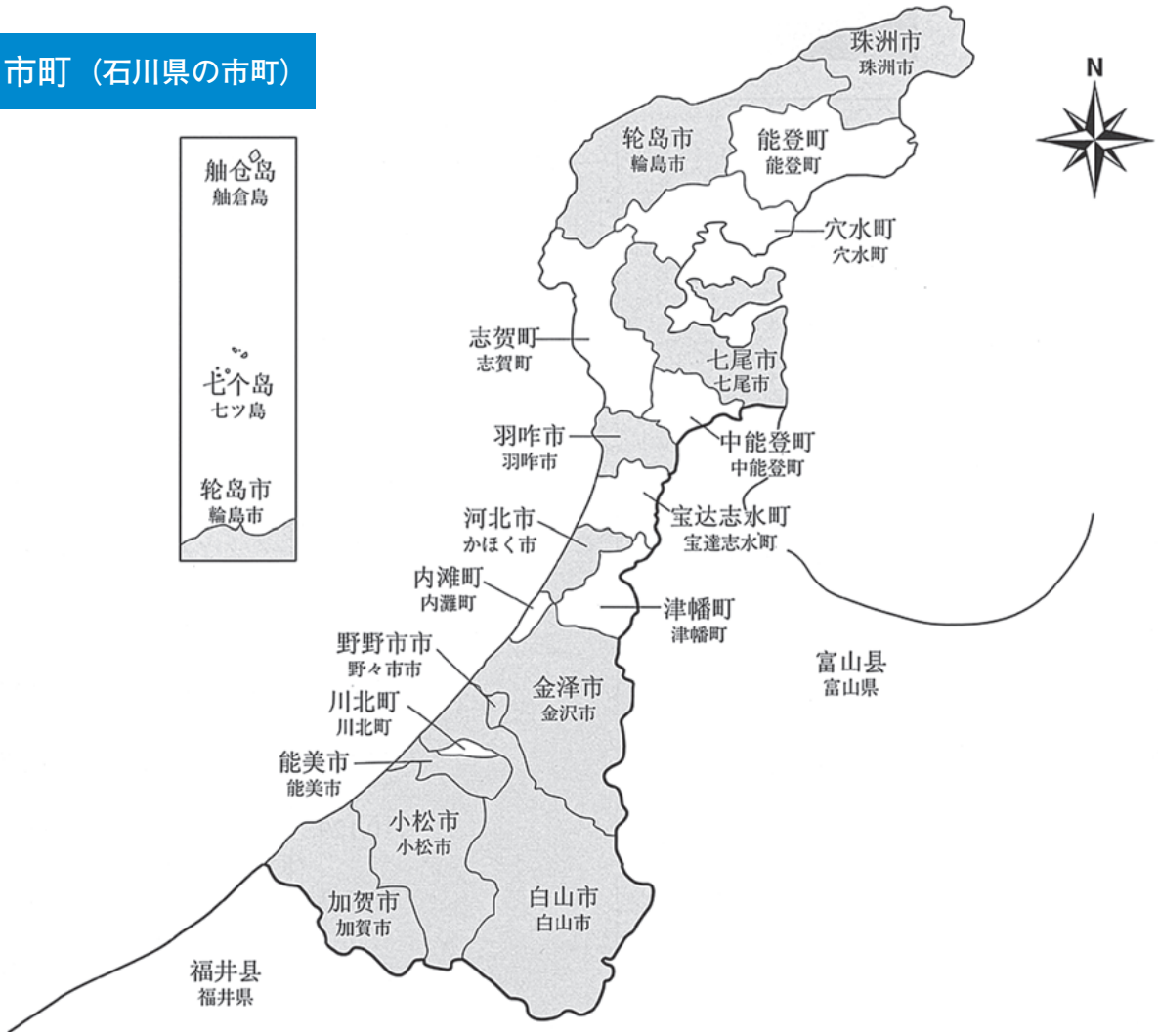
石川县的市町（石川県の市町）



县鸟（黑鹫）
県鳥（イヌワシ）

1965年1月1日制定

日本最大的鹫生活在白山连绵山峰中，双翼展开可达两米。鹫全身呈偏黑的茶色，在陡峭的山涧间自由翱翔，雄姿颇具气势，英勇的姿态和勇猛果敢的天性彰显出博大宽广、勇往直前的气魄。据推测，在石川县内有30～40只鹫，而日本全国总共仅有300只左右，因此及其珍贵。

昭和40年1月1日指定

白山連峰に生息する日本最大級のワシで、翼を広げると2mにもなります。全体に黒っぽい茶色をしており、切り立った谷間の空をゆうゆうと飛んでいる姿は、貫禄があり、その雄々しい姿と勇猛果敢な性質からは広大・進取の気風が感じられます。

県内には30～40羽が住んでいると推定されますが、全国的に見ても300羽ぐらいしかいないことから、非常に貴重です。

县树（当桧）
県木（アテ）

1966年10月1日制定

“Ate”这一名字是北陆地区对罗汉柏的叫法，为了打造绿色环境和提高爱护树木的意识为目的，从县民中征集而确定了该名称。此树木多生长在能登地区，是石川县独有的造林树种，多用于家具、建筑材料和轮岛漆器木胎。

昭和41年10月1日指定

緑の環境づくりと愛樹思想の啓発を目的に県民から公募し、指定されました。

能登地方に多く生息し、本県独特の造林樹種で家具、建築材や輪島漆器の木地にも多く使われています。「アテ」の名はヒノキアスナロの北陸での地方名です。

乡土之花（黑百合）
郷土の花（クロユリ）

1954年3月19日制定

黑百合被NHK（日本放送协会）评选为石川县的“乡土之花”。黑百合多生长在灵峰白山的弥陀之原和室堂平附近（海拔2,300米～2,500米处），极耐风雪，开花时可爱迷人，广受县民喜爱。

昭和29年3月19日決定

NHKにより、「郷土の花」として選ばれたものです。霊峰白山の弥陀が原、室堂平付近（標高2,300～2,500m）に多く自生しています。風雪に耐え、可憐に美しく咲くクロユリは、広く県民から親しまれています。